

りんご産地における 補助労働者確保 に向けた取組

現在、りんご農家の担い手の高齢化や補助労働力不足が深刻化している。しかしながら、解消に向けた「援農隊マッチング事業」の取組みにより明るい兆しが見えてきた。

今回は、りんご産地である当JAをモデルとしたこの事業に迫る。

りんご産地における補助労働力確保に向けた取組

現在、リンゴ農家の高齢化や担い手不足、補助労働力不足が深刻化している。そこで、県は国の「援農隊マッチング支援事業」を活用して補助労働力確保に取り組んでおり、モデル地域になっている当JAと一緒に、アンケートによる現状の把握や生産者と補助労働者とのマッチング方法について模索してきた。今回は、これまでの取組結果と今後の課題について報告したい。

産地の労働力事情

農業の担い手や補助労働力の不足と高齢化の進行は、病害虫防除や早期適正着果、適期収穫作業などに影響を及ぼし、高品質なリンゴ生産を継続していく上で大きな課題であり、その対応が急務とされている。また、リンゴ経営は、摘果、着色管理、収穫の各時期に労力が集中するため、この時期に

は自家労働力だけでは間に合わず、かなりの部分を雇用労働力に頼っているのが現状だ。これまで、リンゴの作業経験がある人を継続的に雇用するというケースが多かったが、雇用者においても高齢化等により従来の雇用形態を維持することが難しくなっている。

アンケート結果から見えたもの

平成29年1月に、当JA管内を対象に生産者へ実態把握調査を実施した。

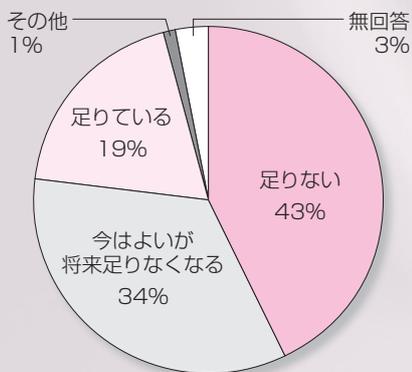
調査結果では43%が現在すでに労働力が足りない状態であり、将来足りなくなると答えた34%を合わせると、実に77%の生産者が補助労働力に不安を持っていることになる。(図1)

雇用条件については、労働者の意向を融通できる又はある程度融通できると答えた割合が69%であり、短時間や不定期といった援農者の要望にある程度融通が利くという結果であった。

このことから、当JAで現在行



図1 現在労働力は足りている？



援農者の受付状況は表1の通りである。申込後に援農希望者の都合でキャンセルとなったこともあ

「援農者」募集は予想を上回る申込み

なっている無料職業紹介事業（勤務時間8時～17時、基本毎日、雨降りも来てほしい）で来る「求職者」とは別に、日常の生活の中で空いている時間を農作業に向けてもらう「援農者」としての視点で労働力を確保できないかということ、8月下旬～9月上旬にかけて県内スーパー等にチラシを配布して募集を募った。

表1 援農希望者受付状況 (11/27現在)

受付件数 31名	男性：10名	70代 2名 60代 11名
	女性：21名	50代 6名 40代以下12名
	弘前市内：21名	
	市外：10名（青森市・蟹田）	
援農受入希望者	33名	
マッチング	25名	

出勤日や勤務時間を援農者に合わせるといった雇用条件の緩和によって、今まで農作業を手伝いたくても条件が合わず、応募に躊躇していた層からの申し込みがほとんどを占めた。実際、園地に来たくても自家用車を使用できる日が限られている場合や毎週の通院日

援農者の特徴

だが、25名の援農者を14農家にマッチングすることができた。無料職業紹介事業では、年間で5～7件のマッチングであることから、9～11月の短期間で14農家にマッチングできたことの意義は大きい。



山内氏のリンゴ園では大学1年生の生徒2名が収穫作業を手伝った

図2 今後労働力確保できる？

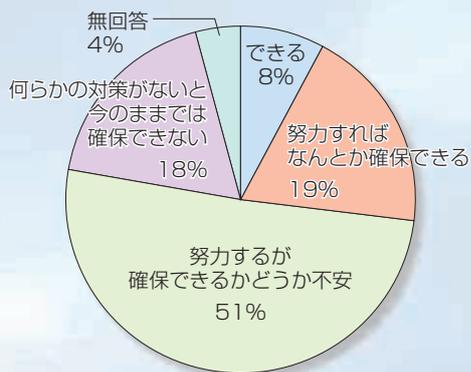
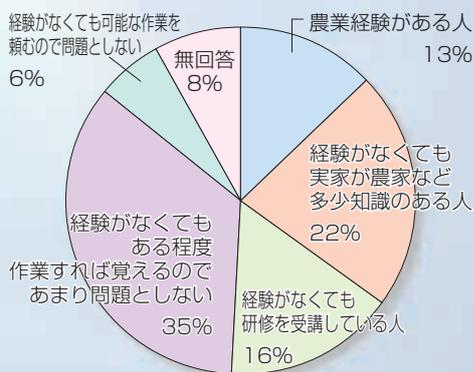


図3 どの程度のスキルが必要？



が決まっているものの「休みたい」と言いづらいなどの条件を持った方からは、「とてもうれしい取組みだ」との声を頂いている。

年齢層別にみると、60代以降の援農者は週1〜2日程度の休みがあれば、毎日でも出勤できるとしている。但し自家用車を持っていない人がいるため、JAと園地間の送迎が必要な方もいた。

一方で60代以下の援農者は、仕事の休みを利用して来るため、日にち指定で単発がほとんどである。また学生は自家用車を持っていないことから、JAと園地間の送迎が必要だとした。

1月のアンケートでは「農業経験者に来てほしい」という意見が多かったが、やる気さえあれば意欲的に作業をこなしており、問題はさほど見られなかった。

今回援農者として申し込んだ大学生の感想

「私たちは東京都出身であることから、リンゴ園ではどのような作業をしているか気になって応募し

ました。実際に作業してみると、園主さんが分かりやすく収穫のコツを教えてくれたほか、安全面にも気配りされており安心して作業できました。」

「私たちにとって、短期間や1日だけのアルバイトは勉学の合間に出来ることからとても魅力的です。実際に職業安定所でも短期間の求人募集は少なく、援農隊マッチング支援事業は大学生にとっても好都合だと思います。夏休み期間も長期であることから、来年は葉摘みの時期などでも応募してみたいです。」

援農隊を受け入れた山内氏の意見

「長期間の雇用は金額的にも大きいことから、スポット的に1〜2日だけでも来てくれればコスト面においても魅力的です。収穫時期にこの事業を活用して本当に助かりました。来年は葉摘みの時期にも人手不足が懸念されることから活用してみたいと思います。」

特集 1

援農隊マッチング支援事業



手際良く収穫を手伝う援農隊



援農隊受入希望者

園主：山内 敬三 さん

収穫時期に限らず、一日だけでも手伝いに来てくれる人が居れば本当に助かります。また、来年も活用したい。



今後の取組について

まず今年度のこの取組に対しての良かった点や改善点などをリンゴ生産者や援農者から聞き取りを行い、内容を検討していく。農作業が初めてだった援農者は、どういふ作業をするのか想像がつかず、「私でも大丈夫だろうか」という不安が園地に入るまであったという意見もあった。また、生産者も援農者を受け入れるために何を準備しなければならぬかなどの疑問があった方もいた。

作業に関する不安については、県で作成中の農作業の手順をまとめたDVDを活用したり、JA指

導員らによる講習会を開くなどして援農者の作業に対する不安を払拭することができる。また、雇用については万が一労災事故が発生した場合、1日限りのアルバイトであっても事業主は補償義務が生じるため、労災保険に加入するなどの対策が必要になる。

このように、生産者と援農者が快適かつ円滑に作業を進めるためには、双方が勉強し合っこの事業の趣旨を理解し合うことが大切であることから、労務管理研修会や農作業のポイントを学ぶ講習会など、必要に応じた情報提供を行うなどして今後の事業継続を図っていく考えである。